

Q. 25 年秋中間 A 教えて！！

A. 御意です！ やりましょう！！

商品開発プロジェクトに関する次の記述を読んで、四つの問いに答えよ。

N 社は、携帯情報端末用アプリケーションソフトウェア(以下、携帯アプリという)の商品開発プロジェクトを、4 月 1 日に社外秘で立ち上げた。携帯アプリの商品開発プロジェクトは、マーケティングを自社で、ソフトウェア開発を外部調達で行う。

[7 月 1 日までのプロジェクトの経緯]

- (1) N 社の体制:4 月のプロジェクト立ち上げ時の構成員は、プロジェクトマネージャ 1 名とプロジェクトメンバ 3 名であったが、6 月からは A さんが参加し総勢 5 名になった。
- (2) ソフトウェア開発:B 社及び C 社と守秘義務契約を締結後、この 2 社に見積書を提出してもらい、6 月中旬に B 社と請負契約を締結した。
- (3) プロジェクト期間短縮:プロジェクト期間は当初 7 か月の計画で開始したが、競合他社が類似商品を開発する動きがあることから、6 月下旬に全体で 1 か月プロジェクト期間を短縮することを検討し実施した。前提条件は、次の 2 項目とした。
 - ・ 商品仕様と請負業務範囲は変更しない。
 - ・ 商品発表は、当初ソフトウェア開発の完了時に行うこととしていたが、ソフトウェア開発完了の 0.5 か月前に前倒しする。

[契約変更と工程管理]

プロジェクト期間短縮を B 社と協議したところ、次の回答があった。

"ソフトウェア開発工程の作業に要員を追加すれば、作業の完成を早めることが可能である。要員追加に伴い一時生産性が低下し、開発工数が増加するので、そのコスト増分が認められれば対応する。バグ増加などのリスクは少ない。"

N 社と B 社は、この内容で合意し、請負契約の変更契約を 6 月末に締結した。

図 1 はプロジェクト期間を 1 か月短縮した変更計画を含むガントチャートである。N 社は、7 月 1 日からこのガントチャートの変更計画に従って工程管理を開始した。

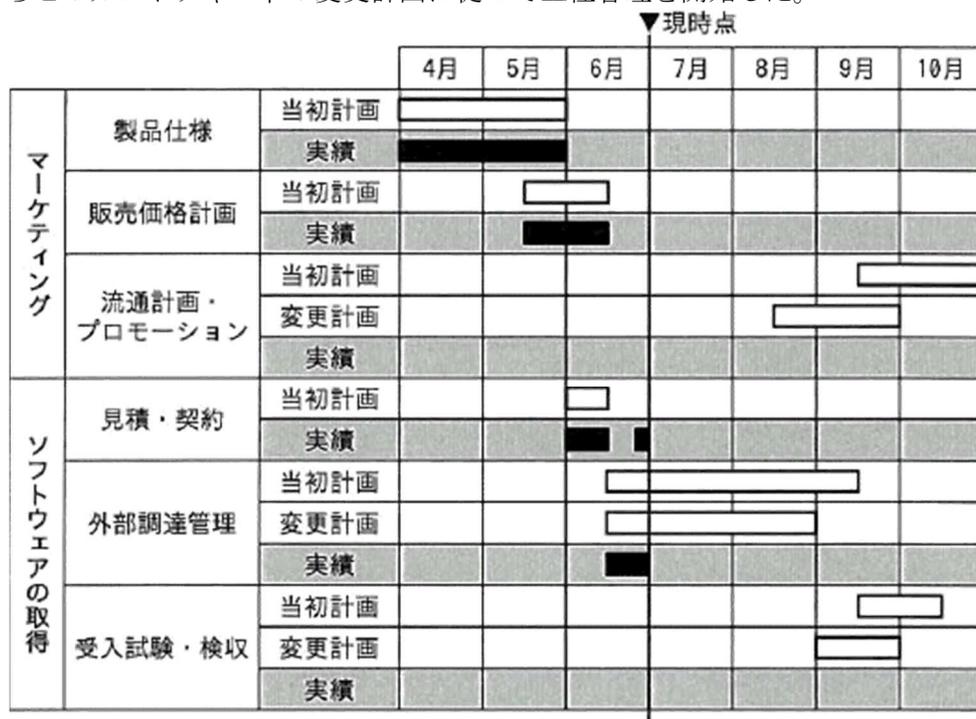


図 1 N 社のガントチャート

設問 85

N 社内のプロジェクトは、構成員全員が相互にコミュニケーションをとりながら進めており、構成員がそれぞれ 1 対 1 で情報の伝達を行う必要がある。この 1 対 1 で情報の伝達を行う経路のことを、コミュニケーションチャンネルという。A さんが参加する前のコミュニケーションチャンネルの総数は 6 であった。A さんが参加した 6 月以降の、コミュニケーションチャンネルの総数として、正しいものはどれか。

- ア. 7 イ. 9 ウ. 10 エ. 15

設問 86

N 社が、見積依頼先の B 社及び C 社と守秘義務契約を締結した理由として、適切なものはどれか。

- ア. N 社と契約した業務を、外部調達先が再委託することを禁止するため
イ. 外部調達先の従業員に、N 社プロジェクトメンバからの指揮命令を確実に守らせるため
ウ. ソフトウェアに関する N 社の著作権を守るため
エ. 見積書作成のために B 社、C 社に与える情報が、いずれかを通じて外部に漏れるのを防止するため

設問 87

N 社と B 社は、ソフトウェア開発の期間短縮を実現するために、締結している請負契約の変更に合意し、6 月末に請負契約の変更契約を締結した。このとき、最初の請負契約から変更になった項目の組合せはどれか。

- ① 契約金額 ② 商品仕様 ③ 納期 ④ 納入物

- ア. ①と② イ. ①と③ ウ. ②と④ エ. ③と④

設問 88

N 社は、7 月 1 日から図 1 のガントチャートの変更計画に従って工程管理を開始した。この変更計画で、プロジェクト期間を全体で 1 か月短縮することを可能にする対策の説明として、適切なものはどれか。

- ア. B 社のソフトウェア開発作業を 0.5 か月短縮し、受入試験・検収を 0.5 か月早める。
イ. B 社のソフトウェア開発作業を 0.5 か月短縮し、受入試験・検収を 0.5 か月早める。
かつ、流通計画・プロモーション業務の開始を前倒し、B 社のソフトウェア開発作業と 0.5 か月並行作業を行う。
ウ. B 社のソフトウェア開発作業を 1 か月短縮する。
エ. 流通計画・プロモーション業務の開始を前倒し、B 社のソフトウェア開発作業と 1 か月並行して作業を行う。